

# 教祖百四十年祭 約12万人帰参



# 真柱様：三年間の努力の上に立ち 新たな歩み出しを

神殿講話に立たれた真柱様は、教祖の年祭は、教祖がお姿を隠されたという事情によることを振り返られ全教が仕切つて一手一つにたすけ一條の活動に取り組んで来たことについて「一生懸命つとめた人であるほ

は大雪の影響で飛行機が欠航するなど交通の乱れがありました。親里は気温2℃。厚い雲が上空まかを覆おおふ。放射冷却は免まぬがれましたが厳しい寒空のもと、帰参者は三年千日無事にお連れ通りいただいたお礼とご報告をご存命の教祖に申し上げようと、約12万人がおぢばに集い、かぐらづとめとめてをどりを心一つに陽気に唱和しま

指して世界たすけのさらなる前進を誓う祭典。この日まで仕切った三年千日の年祭活動では、諭達第四号に心を合わせ、教祖ひながたの道を手本に一人ひとりが心を定めて実行することを主眼に進められてきました。26日は、この冬の最長寒波がようやく終息したとされるものの、北海道で

教祖<sup>おやぢ</sup>140年祭は、1月26日午前10時30分より教会本部において中山大亮<sup>だいりょう</sup>様祭主のもと執り行われました。  
教祖年祭は、教祖が現身<sup>うつしん</sup>を隠され  
た元一日に思いをいたし、成人を目

ど、今日の日を勇んだ心で迎えることことができたのではないかと思います。」「年祭に向かってのいわば非常時の歩みは終わりました。これからは普段の歩みになつていくわけです

本島からの帰参者数は一千025名（帰参報告数による）。1月25日、本島詰所に宿泊した人数は361名。また詰所受入ひのきしん隊には28名（在籍者を除く）が勤めました。

教祖年祭に統いて「教会長ご招宴」が1月28日より5回に分けて天理大学袖之内第一体育館にて催され、本島より教會長108名が出席しました。

月25日午後2時30分より本部南参道

(黒門跡地)にて御供演奏を実施。現役、リーダー、OBやOG有志79名が高らかに演奏をおこないました。

年祭の記念品として、教会本部より各教会に色紙、各帰参者にはハンドタオルが下附されました。

# 本島通信

発行所 〒 763-0223  
香川県丸亀市本島町泊 268  
**天理教本島大教会**  
電話 0877-27-3321 (代)  
**本島通信編集室 R.260125-0128-15**  
奈良県天理市指柳町 270-1  
本島詔所 〒 632-0093  
電話 0743-63-1571 (呼)  
<https://www.honjima.com>  
Email: webmaster@honjima.com  
**大教会 朝夕おつとめ時間**  
**[2月1日～2月15日]**  
朝づとめ 午前 6時 45分  
夕づとめ 午後 6時 15分  
**[2月16日～3月31日]**  
朝づとめ 午前 6時 45分  
夕づとめ 午後 6時 30分

# 世界が仲良く楽しく暮らす 陽気ぐらし目指して

本島大教長 片山幹太

かたやまかんた



本日は本島大教会の立教189年春季大祭に遠近を問わず、国内はもとより海外からも大勢お帰りください、誠にありがとうございました。

私たちは国内、海外など、遠い近いで分けてしまいますが、教祖からご覧になつたら、きっと内も外も分け隔てなく、一れつ可愛い子どもでしよう。改めまして教祖140年祭間近の春季大祭に際し、ご挨拶させていただきます。皆さま、おめでと

うございます。ありがとうございます。  
只今の外気温は3・5°Cのことです。私たちは神殿内で、ストーブもありますので暖かいのですが、きっとおぢばは寒いことでしょう。

明治20年陰曆正月26日、教祖が現身を隠されたときの気温も3°Cから4°Cだったとのことです。ですから、このままおつとめ着で外で神殿講話をしたら、140年前の大ふしの一端を体感できることでしょう。

先人はとても厳しい環境のもと、命をかけておつとめを勤められました。そのことを考えると、今日の私たちは大変有難いことだと思います。今日は話題を進めさせて頂きたいと思います。

本題に入る前に、この場で一つ歌を歌いたいと思います。「おやがみさま」いう歌です。ご存知の方は一緒にお願いします。いきますよ。

「おやがみさま」

とおいとおい そのむかし  
おやがみさまは にんげんを  
つくりたもうた お父さま  
つくりたもうた お母さま

みんながなかよく くらすなら  
みんながたのしく くらすなら

おやがみさまも どんなにか  
お手々たたいて およろこび

親神様のお立場と思召を端的にお示しくださっている歌です。あらためてこの歌を心に治めて通らせて頂きたいと思います。

教祖140年祭を間近に迎えたこの旬に、もう一度真柱様の思いを振り返りたいと思います。

諭達第四号の最後は「御存命でお働き下さる教祖にご安心頂き、お喜び頂きたい」と締めくくられています。「ご安心」「お喜び頂きたい」の2点についてお話ししたいと思います。教祖にご安心いただくためには、何が必要なのか、私の思案は2つあります。

一つ目のヒントは「元の理」です。一部分を拝読します。

最初に産みおろされたものは、一様に五分であつたが、五分五分となつた時、皆出直してしまい、父親なるいざなぎのみことも、身を隠された。しかし、一度教えられた守護により、いざなみのみことは、更に元の子数を宿し込み、十月経つて、これを産みおろされたが、このものも、五分から生れ、九十九年経つて三寸五分まで成人して、皆出直した。そこで又、三度目の宿し込みをなされたが、このものも、五分から生れ、九十九年経つて四寸まで成人した。その時、母親なるいざなみのみことは、「これまでに成人すれば、いずれ五尺の人間になるであろう」と仰せられ、つっこり笑うて身を隠された。そして、子等も、その後を慕うて残らず出直してしまった。とあります。

ここで注目したい言葉は「成人」と「つっこり笑うて身を隠された」です。五分とは約1・5センチ。三寸は約9センチ。九十九年かけてそのぐらいの成人です。一般的には「成長」ではないかと思うのですが、教祖は「成人」と仰せられています。それは

身体の成長だけでなく、心の成長も含まれているというのが私の悟りです。

そしてスタートラインは五分から。最初に三寸、次は三寸五分、その次は四寸まで成人して出直します。スタートラインは同じでも、毎回成人の幅が大きくなっている。繰り返しながら、成人の幅が大きくなっている。そこに大事なポイントがあるよう思います。

そして「につこり笑うて身を隠された」のは、いざなみのみこと様が子どもの成人していく姿を見られたからではないでしょうか。つまり成人していく姿が「安心」ということだと思うのです。

ですから私たちには10年に一度を迎える教祖年祭のたびに、生涯かけてどこまでも成人の歩みを止めないよう努めさせていただく。それが教祖のご安心につながると思います。

ですから、誠実な心で、思いやりの心、おたすけの心、そのような教祖のお心に近づけるように、成人の歩みを進めさせていただきたいと思います。

もう一つは、明治20年陰曆正月26日、現身を隠されるときの教祖は

十二下りの最後のお歌が終わる頃、「陽気な鳴物の音を満足気に聞いておられた」とあります。この「満足気に」というのも安心ということになるのではないでしょうか。

つまり私たちは教祖に安心していただけるようなおつとめを勤めることが大切です。形式も大事ですが、世界たすけの心を定めて勤めることが不可欠ではないかと思います。

この明治20年陰曆正月26日のおつとめですが、稿本天理教教祖伝を読み解きますと、鳴物は揃っていません。かぐらづとめの女性がつとめるお役は男性が担つておられます。てどりのおり、おとふりも男性ばかり6人で勤められています。形は不揃いで、あつたけれども、教祖は満足気におつとめを聴いてくださつておられた。

そう思うと、我々の心定めが何よりも教祖にご安心いただけるおつとめの勤め方ではないでしょうか。

先ほど歌つた「おやがみさま」の歌の2番歌詞は「みんなが仲良く暮らすなら、みんなが楽しく暮らすなら、親神様もどんなにかお手々たたいてお喜び」とあります。

私たちの信仰の目的は、陽気ぐらし世界実現にあります。具体的には

世界中の人たちが、みんな仲良く樂しく暮らしていく世界。これが何よりの目標であり、目的地であります。今は残念ながら争いがあちこちで行われていますが、陽気ぐらしに近づけば近づくほど、親神様はお喜びく

ださい、手を叩いて喜んでくださる。

そのために、私たちは教祖から「つとめ」と「さづけ」をお教えいただきました。しかし、おつとめをつとめること、おさづけを取り次ぐこと、それが目的なのではなく、あくまでも世界中の人たちが仲良く樂しく、ということが目的地であり、そのため向外か働きかけ実行していく。その通り方が、教祖にお喜びいただけることにつながつていくと思うのです。

まずは一対一からでも、仲良く楽しく暮らせるように、信仰にもとづいて、教祖をお側に感じながら、通らせていただきたいと思います。

最後に、教祖年祭を前に、稿本天理教教祖伝の最後の部分を読ませて頂きます。

第十章「扉ひらいて」は次のお話から始まります。

二月十七日夜(陰曆正月二十五日夜)、今にして思い返せば、教祖が現身を以てこの世に現れて居られた最後の夜であるが、この夜、教祖のお身上宣<sup>よる</sup>しからず、飯降伊藏を通じて伺うた処、

さあくすつきりろくちに踏み均らすで。さあく扉を開いてく、一列ろくち。さあろくちに踏み出す。さあく扉を開いて地を均らそうか、扉を閉まりて地を均らそうかく。

とのお言葉である。

人間は、親神の目から御覽になれば、皆一列に兄弟姉妹である。魂の理から言うならば、些かも高低上下の差別はない。ろづくの立場、一列兄弟の立場に於いて、総ての人々が

教祖は、風呂場からお出ましの時、ふとよろめかれた。その時、伺うと、「これは、世界の動くしるしや。」と、仰せられた。

語り合う処にこそ、陽気ぐらしの世界への門出がある。即ち、人々の心をろくろく地にしようと思うが、さて、扉を開いて地を均そうか、扉を閉めて地を均そうか。

と、問われた。

これに対し、一同から、扉を開いてろくろくに均らし下されたい。と答えると、この時、伺いの扇がさつと開いた。そして、

成る立てやい、どういう立てやい。いずれくく引き寄せ、どういう事も引き寄せ、何でも彼でも引き寄せる中、一列に扉を開くくくくく。ころりと変わるで。

道の理と世界の理どが、いよいよ立て合って来た。世界たすけの道をつけようとして、どのような者もこのような者も、皆、元のやしきへ引き寄せて来であるし、どのような事柄も、皆、このやしきへ引き寄せて来てある。何でも彼でも、皆、引き寄せる中に、扉を開いて世界たすけに出たならば、ころりと道の様子が変つて来る。

と、仰せられた。

これにつづいて、尚も、世界の事情運ばして貰いとう御座ります。と、又しても、教会設置の事を願うと、

—ならんくくく。  
—取り違えではならん、もつと迫つてている。

と、お知らせ頂いた。

明くれば二月十八日、陰曆正月二十六日である。恰も、從来から毎

月、つとめをして來た日であるし、殊には、教祖のお身上に関して、つとめをお急込みになつてゐる。近郷

近在からは多数の参拝人が詰めかけている。しかも、官憲の目は厳しく、拘引しかねまじい剣幕である。人々はこの板挟みの中に立つて、思案に暮れた。そこで、思召を伺うと、

さあくくいかなるも、よう聞き分けよくくく。さあくくいかなるもどうも、さあ今一時、前々より毎夜々々々伝える処、今一つのこの事情早うから、今からと云う

たなあ。さあ、今という處諭してある。今から今掛かるという事を、前々に諭してある処、さあ今の今、早くの処急ぐ。さあという処、応

この刻限は、もう尋ねている時ではない。これだけ言うたら分るであろう。との仰せである。

このお言葉を頂いて、一同心を定めていると、その日の正午頃から、教祖のお身上がいよいよ迫つて来たので、一同全く心定まり、眞之亮から、おつとめの時、若し警察よ

つとめは、かんろだいのぢばを中心としたので、つとめ場所の南及び東には、濫<sup>みだ</sup>りに入り込まないよう竹を横たえて結界としたが、次々とその数を増して来る参拝人のため、遂にその竹は細々に割れたと

いう。つとめは午後一時頃から始ましたが、とうとう巡査は一人も来なかつた。かくて、つとめは無事に了つた。人々にとつては、これこそ

前々より知らしてある。今という刻限、今の諭<sup>じや</sup>らない。どういう処の道じやな。尋<sup>たず</sup>ねる道じやない。これ一つで分かろう。

その事は前々から繰り返し繰り返し諭した通りである。もつと早くから言<sup>て</sup>うている。さあ、今と云つたら今直ぐに掛け。さあ、早く急いで取り掛け。手続きをするから、それ迄待つてくれ、というような悠長な事を言<sup>う</sup>っている場合ではない。一体、お前達は法律が怖いのか。をやの話が尊いのか、どちらに重きを置いて信心をしているのか、この点をよく考えなければいけない。親神の思ひが奈辺に在るかという事は、前々から十分諭してある。説いてある。

梅谷四郎兵衛、増野正兵衛、梶本松治郎。以上総計十九名。

娘<sup>むすめ</sup>、今日はお前もおつとめに出よ。との、眞之亮の言葉によつて、つとめに出た。家事取締りに当つたのは、梅谷四郎兵衛、増野正兵衛、梶本松治郎。以上総計十九名。

つとめは、かんろだいのぢばを中心としたので、つとめ場所の南及び東には、濫<sup>みだ</sup>りに入り込まないよう竹を横たえて結界としたが、次々とその数を増して来る参拝人のため、遂にその竹は細々に割れたと

驚くべき奇蹟であった。

しかし、これと立て合つて、陽気な鳴物の音を満足気に聞いておられた教祖は、丁度、「だいくのにんもそろひきた」という十二下りの最後のお歌の了る頃、一寸変つたそぶりをなさつたので、お側に居たひさが、お水ですか。と、伺うた処、微かに、「ウーン」

と、仰せられた。そこで水を差上げた処、三口召し上つた。つづいて、おばあ様。と、お呼び申したが、もう何ともお返事がない。北枕で西向のまま、片手をひさの胸にあて、片手を自分の胸にのせ、スヤスヤと眠つておられるような様子であった。ひさは大いに驚いて、誰か居ませんか、早く眞之亮さんを呼んで来て下され。と、大声に呼んだ。報せを聞いて、眞之亮が早速駆けつけた。ついでたまへ、おまさ、と、相次いで駆けつけて来た。

たまへの着いた時、眞之亮は、嬢、いと早よ来い。と、大声で呼んだ。たまへは、おばあ様がおやすみになつているのに、そんな大声を出してよいものか、と、いぶかつていて、側に居たひさが、嬢ちゃん、おばあ様がこんなになられた。と、言ひながら

ら、たまへの手を教祖のお顔に持つて行き、つめたいやうな。おばあ様は物言わはんねがな。と、言うたので、それを聞いて、初めてそれと知つたたまへは、「ワー」と大声で泣いた。眞之亮は、泣くな。と、なだめてから、早速一同の人々に事の由を伝えた。

つとめを無事了えて、かんろだいの所から、意氣揚々と引き揚げて来た一同は、これを聞いて、ただ一聲、「ワーッ」と悲壯な声を上げて泣いただけで、あとはシーンとなつて了つて、しわびき一つする者も無かった。

教祖は、午後二時頃つとめの了ると共に、眼るが如く現身をおかくしになつた。時に、御年九十歳。

人々は、全く、立つてゐる大地が碎け、日月の光が消えて、この世が眞つ暗になつたように感じた。眞実の親、長年の間、何ものにも替え難く慕い懐しんで來た教祖に別れて、身も心も消え失せんばかりに泣き悲しんだ。更に又、常々、百十五歳定命と教えられ、余人はいざ知らず、教祖は必ず百十五歳までお居で下さるものと、自らも信じ、人にも語つて來たのみならず、今日は、こうし

ておつとめをさして頂いたのであるから、必ずや御守護を頂けるに違ない。勇み切つていただけに、全く驚愕し落胆した。人々は、皆うなだれて物を言う氣力もなく、ひたすらに泣き悲しんでいたが、これではならじと氣を取り直し、内蔵の二階で、飯降伊藏を通してお指図を願つと、さあくろつくの地にする。人々揃うたかく。よう聞き分け。これまでに言つた事、実の箱へ入れて置いたが、神が扉開いて出たから、子供可愛い故、をやの命を二十五年先の命を縮めて、今からたすけするのやで。しつかり見て居よ。今までとこれから先としつかり見て居よ。扉開いてろつくの地にしようか、扉閉めてろつくの地に。扉開いて、ろつくの地にしてくれ、と、言つたやないか。思うようにしてやつた。さあ、これまで子供にやりたいものもあった。なれど、思うように授ける事が出来なかつた。これから先、だんだんにその理を渡そう。

このお諭しを聞いて、一同は、アッと思つた。が、昨日答えた言葉を、今日言い直す事は出来ぬ。昨日お答え申上げた時の一同の心からすれば、姿をかくされようとは、全く思いもかけない事であつた。しかしながら、姿をかくして後までも、生きて働かれると聞き、成程、左様であるか、教祖は、姿をかくして後までも、一列たすけのために、存命のままお働き下さるのか、それならば、と、一同の人々は漸く安堵の胸を撫で下さ

の扉を開いて出たからには、総て現われて来る。子供可愛いばかりに、その心の成人を促そうと、まだこれから先二十五年ある命を縮めて、突然身をかくした。今からいよいよ、世界を駆け巡つてたすけをする。しつかり見ていよ。今迄とこれから先と、どう違うて来るか確り見て。昨日、扉を開いて平な地にさあくろつくの地にする。人々均そうか。扉を開めて均そうか、と言つた時に、扉を開いて平な地に均してくれと、答えたではないか、親神は心通りに守護したのである。さてこれ迄から、子供にやりたいものもあつた。なれど、思うように授ける事が出来なかつた。これから先、だんだんにその理を渡そう。

このお諭しを聞いて、一同は、アッと思つた。が、昨日答えた言葉を、今日言い直す事は出来ぬ。昨日お答え申上げた時の一同の心からすれば、姿をかくされようとは、全く思いもかけない事であつた。しかしながら、姿をかくして後までも、生きて働かれると聞き、成程、左様であるか、教祖は、姿をかくして後までも、一列たすけのために、存命のままお働き下さるのか、それならば、と、一同の人々は漸く安堵の胸を撫で下さ

した。

さあ〜これまで住んでいます。何ど  
處へも行てはせん。何處へも行  
てはせん。日々の道を見て思や  
んしてくれねばならん。

(明治23年3月17日)

一列子供を救けたいとの親心、一条  
に、あらゆる艱難苦労の中を勇んで  
通り抜け、万人たすけの道をひらか  
れた教祖は、尚その上に、一列子供  
の成人を急込む上から、今ここに  
二十五年の寿命を縮めて現身をかく  
されたが、月日の心は今も尚、そし  
ていつまでも存命のまま、元の  
やしきに留まり、一列子供の成人を  
守護されている。日々に現われて來  
るふしぎなたすけこそ、教祖が生き  
て働いて居られる証拠である。  
月日にハセカイぢつうハミナガ子  
かハいいいゝばいこれが一ちよ

(十七号16)

以上でございます。

教祖年祭の当日は、この教祖のお  
心をしつかり胸に治め、新たな歩み  
出しをお誓い申し上げましょう。  
ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

\*〔○〕は新任辞令

### 青年会本島分会

### 少年会本島団

## 大教会長動向

### ▼2月(予定)▲

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1日、教会長ご招宴ひのきしん | 23日、河原町大教会参拝       |
| 5日、本部神殿奉仕当番    | 22日、大教会月次祭執行       |
| 24日、修養科門出まなび   | 25日、かなめ会委員会        |
| 26日、本部月次祭参拝    | 27日～3月2日、教人資格講習会講師 |
|                | 以上                 |

27日～3月2日、教人資格講習会講師

以上

### 入社祭

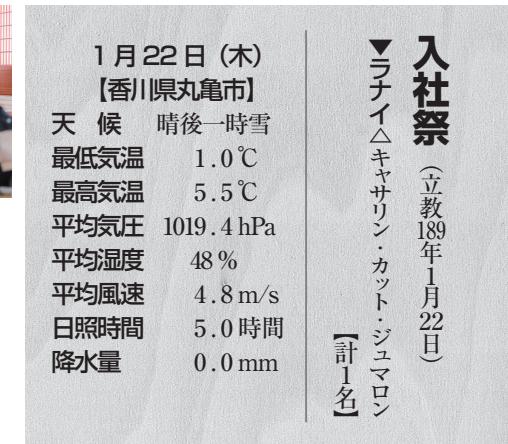
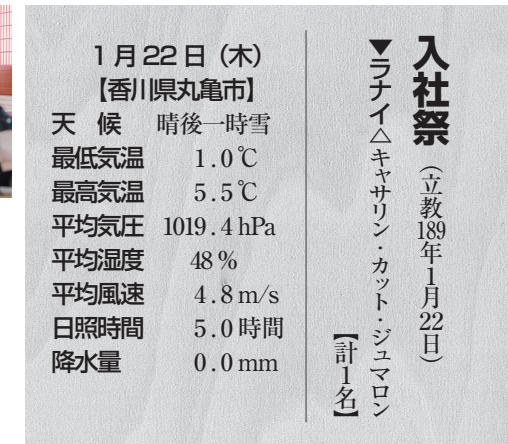
(立教189年1月22日)

▼ラナイ△キャサリン・カット・ジュマロン  
【計1名】

1月22日(木) 【香川県丸亀市】	
天候	晴後一時雪
最低気温	1.0°C
最高気温	5.5°C
平均気圧	1019.4 hPa
平均湿度	48%
平均風速	4.8 m/s
日照時間	5.0 時間
降水量	0.0 mm



教祖140年祭を迎える春季大祭にあたりてをどりの後、教祖殿祭文を奏上いたしました。



本島詰所主任 大西 知  
(立教188年10月1日付)

青年会本部部員 向所慶太  
(立教188年10月27日付)

以上



教祖140年祭を迎える春季大祭にあたりてをどりの後、教祖殿祭文を奏上いたしました。

神殿講話	胡三味琴 小弓線 すりがね 太鼓 すりがね 拍子木 ちゃんぽん 笛	てをどり	地 方	祭主 岩橋竜造	指図方
					大教会長 片山勲 平井真治郎 西山哲 井上哲 岡崎マーロン
大教会長	大教会長 井上哲 西山道教 岡崎マーロン 長谷川邦昭 岩橋慶三 前会長 片山孝代 原口八十則 窪田靖明 池田さわみ 斎藤かよ 岡崎むつゑ 高島栄造 長尾海和 吉田知彦 横関茂治 長濱充憲 伊東晴美 ソーン・リン 上田敬子 横山富明 屋敷ケリー 宮路和徳 牧野近弘 茶屋原良昭 大上道徳 吉田晴雄 大西成美 岩崎宏子 奥村龍夫 篠原丕王 伊東康成 片山直明 大上道徳 鳥澤むつ代 岩橋晶子 老木邦光 斎藤カーレン 大西知 寺本教生 牧野道昭 片山やすゑ 岩橋元実 原口和子 長尾澄子 平井真治郎 老木邦光 斎藤カーレン 大西知 寺本教生 牧野道昭 片山やすゑ 岩橋晶子 胡三味琴 小弓線 すりがね 太鼓 すりがね 拍子木 ちゃんぽん 笛	てをどり	地 方	祭主 岩橋竜造	指図方
					大教会長 片山勲 平井真治郎 西山哲 井上哲 岡崎マーロン
					大教会長 片山勲 平井真治郎 西山哲 井上哲 岡崎マーロン

## 春季大祭祭典役割

献饌長 岡崎八十則  
伝供 向所隆文・永島宗行  
大上道徳・原口実・後藤正治  
奥村龍夫・伊東康成・片山直明  
茶屋原良昭・高島栄造・横関茂治  
長尾海和・老木俊彦・岩橋秀一  
松下尚一・香川勝巳・鎌田典夫  
恒治・内橋和博・鎌田康典  
片山昇太(順不同)

宮路和徳・村田輝夫・橋口徹  
大久保荒和・古井信・川村吉夫  
溝口晋太郎・江草克二・屋敷  
ゲーリー・肥後信・牧野近弘

雅楽奉仕者 文岡育則・池田

恒治・内橋和博・鎌田典夫

溝口晋太郎・江草克二・屋敷  
ゲーリー・肥後信・牧野近弘

春季大祭祭文 立教百八十九年一月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理玉命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には「陽気ぐらしを見て共に楽しみたい」との思召からこの世と人間をお創り下され旬刻限の到来と共に教祖をやろにこの世の表にお現れ下されよろづ委細の元の理をお説き明かし下されて

世界たすけのこの御教えをお啓き下さいましたお陰を持ちまして私共は眞実の親の深き御心に目覚め届かぬながらも思召にお応えさせて頂けるよう日々心勇んでたすけ一条の上に努めさせて頂いておりますがその中にもこの月は教祖が子供の成

人をお急き込み下さる深い親心から二十五年先の定命をお縮めになり扉を開いて世界ろくぢに踏みならしにお出まし下されより百四十年目の尊い月に当りますのでぢばの理に倣い今日の吉き日に當大教会の春の大祭を執り行い教祖年祭の元一日の理を心にたえ尽きせぬ厚き親心に御礼申し上げつゝ今から役目に与るおつとめ奉仕者一同心を一つに結び合わせて御教え通り座りづとめてを

どうりを陽気に出んでつとめさせて頂きます

御前には国内はもとより海外からも遠近問わず大勢の教え子達が帰り集い日頃賜る厚き御恵に御礼申し上げ尚も変らぬ御守護にお縕りする眞実の状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

私共一同は教祖百四十年祭を目指して一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高めそれぞれが定めた目標達成に向つて三年千日を年祭活動として歩ませて頂いてまいりました

道中親神様には常に温かい親心にお抱え頂いて成人の道にお連れ通り下り誠に有難ございました

私共はこれから後も教祖のひながたを心の糧として

で力強く歩ませて頂き教祖の御心に溶けきつて御教えを伝え広めさせて頂く決心でございます

とも自由の御守護を賜わり世界一列が互いに扶け合つて思召し下さいます陽気ぐらしの世の状に立て変わりますよう御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

## 春季大祭教祖殿祭文

ご存命のまま日夜子供の成人の上にお心をおかけ下さいます教祖の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

教祖には魂の因縁により月日のやしろとお定まり下されより永の歳月筆にも口にもつくせぬご苦労の中をも勇んでお通り下されてひながたの道を

お遺し頂いたばかりでなく子供可愛い一条から定命までお縮めになり今もなお存命のまま一れつ

の子供の成人をお引き下さる親心の程は言葉をつくりしても御礼申し上げることは出来ません

私共はただただこの御厚恩にお応えいたしたいと日夜ひながたを仰ぎ百四十年祭を目指して一手一

つに努めて参りましたが親心のまにまにつがなく御年祭の年を迎えて頂き誠に有難い極みで

ごぞいます

つきましてはぢばの理を受けて当教会にても今日の縁ある日に春の大祭を執り行い改めて教祖の御前に参り出て教え子達と共に御苦勞の道すがらをお徳

び申し上げると共に今後なお一層心を一つに結び固めてたすけ一条勤めきる決心でございます

何卒この心定めをお受け取り下さいまして新しい芽生えの道をお見せ下さると共に日一日と成人の道をお連れ通り下りると共に日一日と成人の道をお連れ通り下りと申します

い申し上げます

(原文のまま)

本島団鼓笛隊

教祖140年祭OB&OG合同御供演奏

本島団鼓笛隊(佐藤道子部長)では、教祖140年祭前日の1月25日午後2時30分、本部南参道(黒門跡地)において御供演奏をおこない、総勢79名が演奏をお供えしました。

この御供演奏はOBの中から呼びかけが行われ、現役53名(ドリーム隊2名、本隊14名、ジュニアリー・ダービー3名、リーダー34名)のほか、すでに高齢のOBやOG26名も参加。昭和41年に本島鼓笛隊が初めてこどもおぢばがえりに参加して以来60年の伝統にふさわしく、世代を越えたメンバーが

一手一つにエレメンタリーマーチ」「スコットランド・ザ・ブレイブ」「R・Y・G」のスタンダードナンバーを演奏しました。

午後2時ごろ、天理は気温4℃。風速5メートルの冷たい北西風にのってみぞれが降つていましたが、午後2時30分の演奏開始にあわせてパツと青空が広がり日光が射すという、感動的な天氣にも恵まれました。

また御供演奏に先立ち、午後1時15分より詰所玄関前でも演奏を行いました。

教会本部のライブカメラには、鼓笛隊待機のとき激しいみぞれが写っていました。

本島団鼓笛隊(佐藤道子部長)では、1月11日に本権分教会(大上道徳会長、札幌市西区)において「北海道地区創立50周年記念総会」を実施。鼓笛隊OBやOGを含め27名が集まることになった。



創立50周年記念総会

本島団鼓笛隊 北海道地区

立教百八十九年元日祭 祭典役割



A wide-angle, real-time video feed from a camera at Nijo Castle. The scene shows a long, paved walkway lined with traditional Japanese buildings on both sides, featuring dark tiled roofs. The walkway is bordered by lush green trees. In the background, more buildings and hills are visible under a bright, slightly overcast sky. A few people can be seen walking along the path.

記念式典では佐藤部長が大教会長メッセージを代読。「50年前、先人先輩の人材育成に対する熱い思いから、北海道での鼓笛隊冬季合宿が始まりました。関係者の努力と苦心により、50年間続いてきたことに敬意を表するとともに、見えてきた課題について

思案し、合宿がより充実した育成活動の場となることを

う」と述べられました。

育成活動の場となることを願っています。」「鼓笛隊はまだ伸びしろがあると思います。最初の目的を見失わまずこれからも多くの少年会員を立派なようぼくへ導けるよう努めさせていただきましょ

視聴したのち、OBやOGと一緒に楽器を手にマーチ3曲を御供演奏しました。

## 事情はこび

立教1891年1月、本島関係のお運びはありませんでした。

おじうかの理拵戴

(立教188年12月分)

御幸濱

幸美

教會長資格檢定合格

(立教188年12月18日付)

鶴峰尾閥

## 教人登錄

(立教188年12月4日付)

修養科第一〇一期修了

新信峰 高橋勝彦  
(立教188年12月27日修了)

**計1名**

証拠守り下附

神殿中段の螢  
光灯交換、合  
祀祭準備をお  
こなしました。

イナル）を1月18日に実施。



御幸濱3、与島2、大松峰1  
（立教188年12月分）  
【計6名】

## 青年会マンスリー隊(最終回)

おもに大教会祭典準備ひの  
きしんを行つてきた青年会マ  
ンスリー隊の第16回隊（ファ  
イナル）を1月18日に実施。  
青年会員6名、青年会OB4  
名、婦人会2名、女子青年3  
名の計15名が参加しました。

## 布教部報告(1月分)

数字は本年の提出回数です

## 統 計 (12月1日~31日)

にをいかげ名簿提出教会（1月）			
本 島 1	本 米 浜 1	本 肥 港 1	1
樺 太 1	本 千 代 1	本 新 田 1	1
本 田 中 1	本 千 賀 1	本 九 台 1	1
本 倉 岡 1	本 千 治 1	赤 峰 1	1
本 樺 1	本 千 惠 1	雅 峰 1	1
本 室 1	本 浜 陽 1	神 峰 1	1
渋 谷 1	本 摄 1	豪 峰 1	1
代 々 木 1	攝 津 1	倉 峰 1	1
本 萬 代 1	攝 泉 1	栄 峰 1	1
本 都 1	本 太 1	雄 福 峰 1	1
本 京 1	本 荻 1	栄 森 峰 1	1
本 東 1	本 水 島 1	栄 星 峰 1	1
本 草 1	本 備 前 1	栄 東 峰 1	1
本 護 1	本 迪 1	靈 峰 1	1
本 三 1	本 府 中 1	大 開 聖 峰 1	1
本 惠 1	沖 浦 1	大 駿 峰 1	1
本 惠 山 1	本 亀 1	別 峰 1	1
本 惠 明 1	本 清 水 1	大 英 峰 1	1
本 静 濱 1	崇 德 1	文 峰 1	1
本 静 森 1	本 高 1	鶴 峰 1	1
本 日 米 1	本 宣 道 1	仙 峰 1	1
本 米 1	本 九 1		
本 米 里 1	本 陽 山 1		

おさづけ取次報告教会		(1月)	
本 島	1	本 米 浜	1
樺 太	1	本 千 代	1
本 田 中	1	本 千 賀	1
本 倉 岡	1	本 千 治	1
本 陸 奥	1	本 千 惠	1
本 樺	1	本 摄	1
本 室	1	攝 津	1
渋 谷	1	攝 泉	1
代 夕 木	1	本 太	1
本 萬 代	1	本 萩	1
本 都	1	本 水 島	1
本 京	1	本 福	1
本 東	1	本 山 海	1
本 道 盛	1	本 備 前	1
本 草	1	本 府 中	1
本 護	1	沖 浦	1
本 三	1	本 亀	1
本 恵	1	本 清 水	1
本 惠 山	1	崇 德	1
本 惠 明	1	島 与	1
本 静 濱	1	高 本	1
本 日 米	1	宣 道	1
本 浜	1	九 本	1
本 米	1	陽 山 本	1
本 米 臺	1	肥 港 本	1
本 米 里	1	千 嘉 本	1
計 76 教会		1,894 回	

教会名	初席	中席	表記整理	修養科	教人講習	検定講習
御幸濱			1			
南峰		1				
吉峰						1
新信峰				1		
合計	0	1	1	1	0	1

▼本島△片山幹太・片山かおり・  
香葉子・幹太郎・好次・昇太△片  
山秀明△長尾真実・幸太 ▼本樺  
△大上ほの香・はる香・太吉 ▼  
本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇  
徳分教会 ▼本高分教会 ▼ホー



【教会の掲示板】(今回が最終回になります)  
本島ドットコムよりダウンロードできます。

## 年間統計表(教会別)

立教 188 年

教会名	別席の誓い	理おさづけ戴の	修養科修了	講習人会修了格	講習会資格修了	証拠守り	をびや許し	名簿提出回数	取次報告回数	教会名	別席の誓い	理おさづけ戴の	修養科修了	講習人会修了格	講習会資格修了	証拠守り	をびや許し	名簿提出回数	取次報告回数	
本清保	-	-	-	-	-	-	-	4	4	栄星峰	1	-	-	-	-	-	-	11	12	
本備前	1	-	-	-	-	-	1	12	12	栄東峰	1	-	-	-	-	-	-	11	8	
本廣島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	靈峰	-	-	1	-	-	-	-	12	11	
本迪	-	-	-	-	-	-	-	7	10	實峰	-	-	-	-	-	-	2	3	3	
本府中	-	-	-	1	-	-	-	11	10	大隅聖峰	2	-	1	-	-	-	2	11	11	
本中國	-	-	-	-	-	-	1	-	-	大松峰	2	-	-	-	-	-	2	-	4	11
沖浦	-	-	-	-	-	-	-	12	12	大駿峰	3	-	-	-	-	-	-	12	12	
馬木尾	-	-	-	-	-	-	1	1	-	別峰	-	-	-	-	-	-	-	10	10	
本龜	1	-	-	-	-	-	-	9	10	吉松峰	-	2	-	-	-	-	1	-	1	
本清水	-	-	-	-	-	-	-	9	10	大英峰	-	-	-	-	-	-	2	11	11	
崇徳島	1	1	-	-	-	-	-	12	12	文峰	-	1	-	-	-	-	1	9	5	
与島	1	-	-	-	-	-	2	-	9	9	肥後八峰	-	1	-	1	-	-	1	1	8
本廣島	-	-	-	-	-	-	-	-	4	銀峰	-	-	-	-	-	-	1	-	2	
本勇	1	-	-	-	-	-	-	4	9	新信峰	3	-	1	-	-	-	-	1	-	5
本高	1	-	-	-	-	-	1	12	12	鶴峰	9	-	4	1	-	-	1	4	11	
本宣道	-	-	-	-	-	-	-	11	7	善峰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
阿波本德	-	-	-	-	-	-	-	-	-	都峰	-	-	-	-	-	-	1	12	11	
本阿波	-	-	-	-	-	-	-	-	-	仙峰	-	1	1	-	-	-	-	12	12	
本九	-	-	-	-	-	-	1	12	12	ホノルル	5	-	-	-	-	-	-	-	-	
本小倉	-	1	-	-	-	-	-	9	9	ニュービギニング	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
本陽山	4	-	-	-	-	-	1	1	11	12	カカコ	-	-	-	-	-	-	-	-	
本大和	-	-	-	-	-	-	-	1	-	ラナイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
本新郷	-	-	-	-	-	-	-	-	-	台檀	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
本九肥	-	-	-	-	-	-	-	-	1	キャップスル	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
本肥港	1	-	-	-	-	-	1	-	9	11	ヒロ	-	-	-	-	-	-	-	-	
本山陽	-	-	-	-	-	-	-	-	3	マウイ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
本千嘉	-	-	-	-	-	-	1	-	-	ワイルク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
本新田	1	1	-	-	-	-	-	11	12	ポートランド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
本九台	-	-	-	-	-	-	-	4	5	エヌ・シー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
本豊後	-	-	-	-	-	-	-	-	1	ウエスタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
本赤峰	3	4	-	1	-	-	-	12	12	マリーナ	-	1	1	-	-	-	-	-	-	
雅峰	-	-	-	-	-	-	-	12	12	イリノイ	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
南吉峰	1	-	-	1	-	-	-	11	1	ミッドウェスト	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
神峰	2	1	-	-	-	-	-	11	11	キャピタル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
豪峰	1	-	-	-	-	-	-	12	11	サザンバージック	-	-	-	-	-	-	-	2	5	
倉峰	1	-	-	-	-	-	-	11	11	シアトル	-	-	-	-	-	-	-	4	8	
榮峰	-	-	-	-	-	-	-	7	7	ハリウッド	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
大雄峰	-	-	-	-	-	-	1	10	10	タミナル	1	-	-	-	-	-	-	1	-	
雄峰	4	3	-	-	-	-	-	10	11	カリフォルニア	1	-	-	-	-	-	1	2	1	
雄山峰	-	-	-	-	-	-	-	7	10	シータック	-	-	-	-	-	-	-	2	-	
栄森峰	4	-	-	-	-	-	-	11	8	本伯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
								合計	77	25	12	6	3	20	33	99	104			

註：[にをいがけ名簿提出回数]の合計 99、[おさづけ取次報告回数]の合計 104 は、提出教会数の合計です

立教 188 年

### 年間統計表(教会別)

教 会 名	別席の誓い	理おさづけ戴の	修養科修了	修養科修了格	講習人資格	講習会修了	講習会修了格	教員資格検定	証拠守り	名簿提出回数	名簿提出回数	取次報告回数	取次報告回数	
										名	会	別席の誓い	理おさづけ戴の	
本 権	島 太	2	2	-	-	1	-	-	-	10	12	本 浜	陽 崎	-
	中	1	-	-	-	-	-	-	-	12	12	本 岡	葵	-
本 田	岡	1	-	-	-	-	-	-	-	8	8	本 摄	花	-
本 倉	奥	-	-	-	-	-	-	-	-	12	12	本 摄	淀	-
本 陸	権	1	-	-	-	-	-	-	-	1	10	本 摄	良	-
本 室	室	-	-	-	-	-	-	-	-	12	12	本 摄	津	-
渢 御	谷	-	-	-	-	-	-	-	-	11	11	本 摄	速	-
幸 幸	濱	-	3	-	-	-	-	-	-	10	10	本 吹	城	-
大 幸	塚	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	本 吹	田	-
桶 幸	山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	泉	-
宮 東	川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	肥	-
本 代	路	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	竜	-
本 東	都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	南	-
本 々	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	滋	-
萬 代	代	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	邦	-
本 本	都	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	フィリッピン	-
本 本	京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	船	-
本 本	東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	篠	-
道 盛	盛	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	太	-
本 本	草	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	萩	-
本 本	護	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	海	-
本 本	治	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	朋	-
本 本	三	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	徳	-
本 本	惠	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	柳	-
本 本	山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	家	-
本 本	明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	張	-
本 本	濱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	那	-
本 本	森	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	姫	-
本 本	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	バシフィックコ	-
本 本	浜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	コ	-
本 本	米	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	岡	-
本 本	臺	1	-	-	-	-	-	-	-	3	9	本 吹	川	-
本 本	里	1	-	-	-	-	-	-	-	12	12	本 吹	浦	-
本 本	浜	-	-	-	-	-	-	-	-	12	12	本 吹	幹	-
本 本	代	3	1	-	-	-	-	-	-	12	12	本 吹	比	-
本 本	賀	-	-	-	-	-	-	-	-	11	12	本 吹	濱	-
本 本	房	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	德	-
本 本	治	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	島	-
本 本	惠	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	福	-
本 本	濱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	海	-
本 本	蘭	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	山	-
本 本	濱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	安	-
本 本	平	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本 吹	藝	-



## 宮森先生おてなおし

【おつとめ修練部】

- 日時：2月 25 日(水)午後 3 時より
- 会場：本島詰所 4 階講堂
- ※どなた様も受講できます。

## 春季雅楽講習会

【青年会本島分会】

- 本島・京城合同雅楽講習会@京城大
- 日時：立教 189 年 2 月 7 日(土) 10 時開講、8 日(日) 13 時閉講
  - 場所：京城大教会
  - 参加御供：2000 円(日帰り 500 円)

## レッツゴー青年会

【青年会本島分会】

- 日程変更：2月 16 日(月)～19 日(木)
- 場所：樺太・本樺・本室分教会
- 派遣委員：伊東孝之、白垣俊生、岡崎八郎

## 天理教少年会幹部会

【少年会本部】

- 日時：2月 27 日(金)午前 9 時 30 分
- 会場：第二食堂

## 大教会2月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：2月 22 日大教会 2 月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：  
メールで、[live@honjima.com](mailto:live@honjima.com) に「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：2月 21 日午後 5 時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。

## 天理教婦人会活動方針

【天理教婦人会】

- 天理教婦人会成人目標  
ひながたをたどり  
陽気ぐらしの台となりましょう
- 立教 189 年活動方針**
- 一、おつとめの大切さを学び  
真実の心で勤めよう
  - 一、日々に教えを実践し  
おつとめを勤める人を増やそう
- ※ポスターを各教会に配布しました。

## 天理教婦人会 第108回総会

【天理教婦人会】

- 総ての会員がおぢばへ  
人を誘っておぢばへ  
—別席者とともに—
- 〈式典〉
- 日時：立教 189 年 4 月 19 日(日)  
午前 9 時 30 分
  - 会場：本部中庭、南・東礼拝場前、西境内地
- 〈記念行事〉
- 支部の集い：式典終了後
  - 講演会：4 月 18 日(土)午後 5 時  
第二食堂、東講堂ほか

## 学生おぢばがえり大会

【本島学生担当委員会】

- 教祖 140 年祭学生おぢばがえり大会
- 日程：  
3 月 28 日(土)午前 10 時(本部中庭)  
式典「真柱様お言葉(メッセージ)」  
式典後、直属アワー  
3 月 27 日(金)夕づとめ終了後  
前夜祭「春 Fes」  
(東西泉水プール前広場)
  - 連絡先：  
雲庵春彦(090-2515-8039)  
横関茂治(090-1138-1690)
- ※教区参加の方も直属アワー準備のため、事前にご連絡ください。



## 鼓笛隊春季合宿

【本島団鼓笛隊】

- 第 115 回本島団鼓笛隊春季合宿
- 集合：3 月 28 日(土)夕刻まで集合
  - 解散：4 月 1 日(水)朝解散
  - 参加対象：令和 8 年度の小学 1 年生より高校 3 年生(幼稚園児不可)
  - ※初めての隊員も参加できます
  - 会場：本島大教会
  - 参加御供：一律 5000 円(フェリー代含む) + 送迎費 2000 円(片道・往復どちらでも)
  - 内容：鼓笛練習、神殿前お供演奏
  - 服装：練習着・帽子・ポシェット貸与。※洗濯は 28 日～30 日まで実施
  - 携行品：健康保険証のコピー、トランナーやパーカー 2 ～ 3 枚(練習着の下に着用します)、下着、靴下、パジャマ、タオル、洗面用具、入浴道具、常備薬、室内練習靴、楽譜、ファイフ(1000 円で販売)、マスク
  - ※ご自分の所持品が把握できないお子様のお荷物には名前の記入をお願いします
  - 申込み：3 月 10 日まで各分隊担当までご連絡ください。
  - ご相談、ご質問は  
佐藤道子(090-7570-4807)まで

## MOMOの会

【婦人会本島支部】

- MOMO の会とは、本島につながる子育て中の母親とその同年代の方が対象です
- ◆鼓笛隊応援ひのきしん&勉強会
- 期間：3 月 29 日(日)から 31 日(火)
  - 場所：本島大教会
  - ※詳細は公式 LINE よりご確認ください



## 2月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

- 〈大教会・食堂ひのきしん〉
- 期間：2 月 21 日～22 日
  - 派遣教会：安藝本中

- 〈詰所・食堂ひのきしん〉
- 期間：2 月 25 日、26 日
  - 派遣教会：本岡、崇徳

<https://www.honjima.com/>